

省エネルギーと木材活用による環境に配慮した庁舎

■省エネルギーな庁舎

- ・建物を高断熱化し外皮性能を高めることに加え、電気、機械設備計画において高効率な省エネルギー技術を採用します。
- ・基準一次エネルギー消費量から 50% 以上削減したCO₂排出量の少ない ZEB Ready を達成し、ZEB 庁舎を実現します。

■環境配慮型庁舎

- ・屋上に太陽光パネルを設置し、庁舎で利用される電気エネルギーを補い、環境に配慮した庁舎とします。
- ・CLT (Cross Laminated Timber : 直交集成板) と呼ばれる構造用の木材を耐震壁として各階の南北面を中心に使用し、地震時の水平力を 10%~15% 程度負担するほか、温かみのある庁舎とします。
- ・雨水を利用する雨水貯留槽を設け、水資源の有効利用を図ります。
- ・電気自動車 (EV) 用の急速充電を整備し、EV 普及促進にも取り組みます。



松山城に隣接する立地や既存県庁施設との調和や景観に配慮した庁舎

■外観デザインの基本方針

- ①本館の縦基調の開口部デザイン
- ②各棟の素材感を生かした外観
- ③解放感のある基壇部のデザイン

新しさの表現



機能的で全ての人が使いやすいユニバーサルデザイン庁舎

■ユニバーサルデザイン庁舎の基本方針

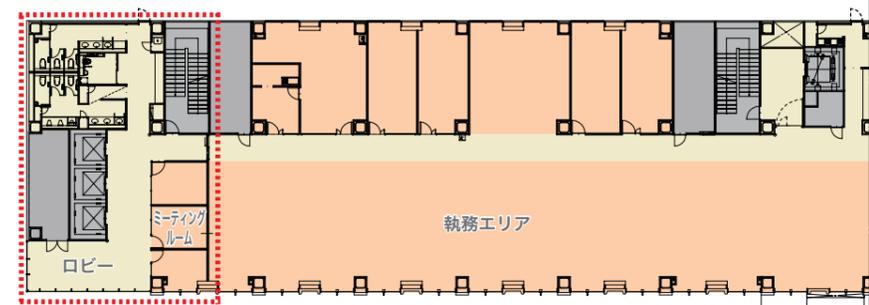
- ・障がいのある方や高齢者、妊婦、乳幼児を連れた方など、誰もが利用しやすく、安全で快適に過ごすことができるユニバーサルデザイン庁舎とします。
- ・来庁者動線を建物西側で集約し、利用者に分かりやすい配置計画とします。
- ・サイン計画には一目で認知できるピクトグラムを採用します。
- ・バリアフリートイレは車椅子利用者にも余裕のある広さを設け、大型ベッドを複数階に配置します。
- ・バリアフリートイレ、男女トイレ内にオストメイト、ベビーチェア、ベビーベッドを分散配置します。
- ・渡り廊下接続部分の見直し等により既存庁舎との段差を解消し、来庁者の円滑な移動に配慮します。

	第一別館	新第二別館		本館	
	バリアフリートイレ	バリアフリートイレ	男子トイレ	女子トイレ	バリアフリートイレ (男女別)
11F		■	■	■	
10F		■	■	■	
9F		■	■	■	
8F		■	■	■	
7F	■	■	■	■	
6F	■	■	■	■	
5F	■	■	■	■	
4F	■	■	■	■	
3F	■	■	■	■	
2F	■	■	■	■	■
1F	■	■	■	■	■

■:オストメイト 全フロアに設置 (計11台) ■:大型ベッド 2フロアに設置 (計2台)
 ■:ベビーチェア 全フロアに設置 (全24台) ■:フィッティングボード 全フロアに設置 (計25台)
 ■:ベビーベッド 6フロアに設置 (全10台)

県庁各施設のトイレ設備

来庁者動線を西側に集約



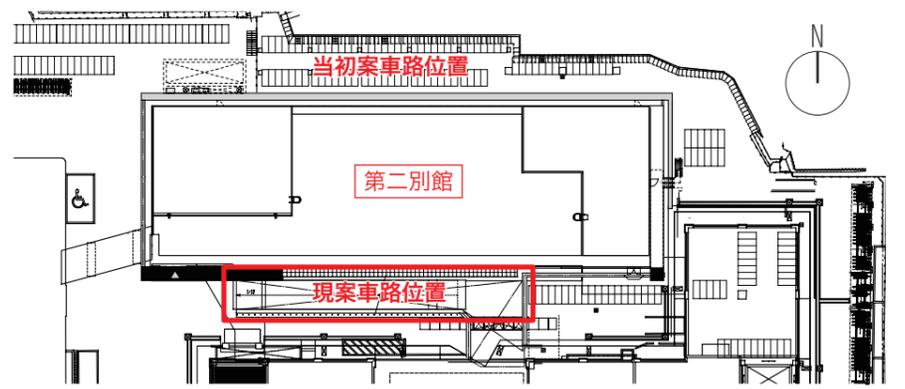
基準階平面図 (S=1:500)



■基本設計時からの変更点

当初案では、地下1階の公用車駐車場への経路を歩車分離が容易な第二別館北側に計画していましたが、車路への土砂流入による被害の回避、軽減を第一に考え第二別館南側に設置しました。

車路を第二別館南側に計画することで第二別館北側の既存駐輪場を残し、急崖に対する影響を最小限にとどめる計画としています。



配置計画図

■工事スケジュール (予定)

	令和5年度 (2023年)				令和6年度 (2024年)				令和7年度 (2025年)			
	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3
解体	約17カ月間											
新築						約28カ月間						